

II 基本構想

1. 中井町が目指す将来像

都市と里山の間にある里都まち⁴(さとまち)である中井町で、中井町民の一人ひとりがこの町で「よく生きる(=ウェルビーイング)」を実現した暮らしを送ることができるよう、町民が幸福を実感できるまちづくりを目指します。

豊かな自然環境の中、地域の人々がお互いに協力することで良い関係性を築き、それぞれの町民が地域社会や暮らしの中で充実した良い暮らしを実現し、身体的にも精神的にも健康な暮らしを送ることで、町全体で幸福を実現する。そのためには、町民・事業者・行政が協働で取り組んでいくことが求められます。

現代は、複雑さを増し、変化を続けています。将来の予測が困難な時代にあっても、地域全体で幸福を実現できる地域となるためには、行政のみならず、町民や地域の団体・企業など、中井町のまちづくりの主体となるそれぞれが互いの立場を尊重し、協力しあいながらより良い関係性を構築していくことが重要です。

町民の一人ひとりの幸せの実現に向けて、町民の誰もが幸福を実感し、中井町で「よく生きる」ことができる、新しい時代における魅力あるまちづくりを目指します。

**町民が幸福を実感できるまち なかい
～里都まちで「よく生きる」～**

⁴ 里都まち:本町の特徴である、やすらぎある豊かな里山環境(=里)と、都市的な生活を味わえる生活環境(=都)を合わせた本町を表す造語。

2. 幸福を実感できる中井町のまちづくりの方向性

社会環境が変化し続け、本町の人口は2050年には現在の約9,000人の7割以下である5,995人となると推計され、よりコンパクトな町となることから、人と人の関係性の充実や地域力が必要不可欠な時代を迎えます。

そのような中、将来像を実現し、中井町民の一人ひとりが幸福を実感できるまちづくりのために第七次中井町総合計画で取り組む方向性について、中井町民が感じるウェルビーイングの実現に関係性が強いと見られる要素を、町民アンケートから分析・検討を積み重ねました。

それらの検討を踏まえ、幸福を実感できるまちの実現に向けた今後のまちづくりの方向性として、次の6つを定めます。



(1) 【よく暮らす】未来に引き継ぐ自然・環境、安心・安全（幸せ指標：暮らしやすい生活環境）

自然や環境を守り、安心・安全な暮らしを未来へとつなぐために、本町の美しい自然と豊かな環境を次世代に引き継ぐことを大切にします。また、気候変動や災害、事故から町民を守る安心・安全なまちづくりを進め、誰もが快適に暮らせる環境を整えます。



(2) 【よく働く】活力ある地域経済・まちづくり（幸せ指標：経済的なゆとり）

活力ある地域経済と魅力的なまちづくりを進めるために、地域産業の活性化や新たな雇用の創出を支援し、働く人が誇りを持てる環境を整えます。また、住みやすく訪れたい魅力的なまちづくりを推進し、地域の活力を高めます。



(3) 【よく学ぶ】自分らしくあるための学びと自己実現（幸せ指標：地位・立場に満足）

自分らしく生きるための学びと成長の場を提供するために、子どもから大人まで、一人ひとりが自分らしく学び、成長できる環境を整えます。生涯学習の機会を広げ、挑戦や自己実現を支える町を目指します。



(4) 【よい心身】心と身体を健康を育み守り合う（幸せ指標：身体的・精神的な健康）

心と身体を健康を育み、支え合う社会を実現するために、町民の健康づくりを推進し、誰もが健やかに暮らせる環境を整えます。また、地域のみならず町全体で支え合い、充実した福祉や子育て環境を整え、心の健康も大切にするまちづくりを進めます。



(5) 【よい繋がり】緩やかな人の繋がり、地域の繋がり（幸せ指標：中井町の人と良い関係）

緩やかな人のつながりと地域の絆を大切にするために、地域で支え合いながら暮らせる環境を育みます。また、多世代・多文化が交流し、誰もが安心して暮らせるコミュニティづくりを目指します。



(6) 【よい行政】町民の「よく生きる」を支える町行政

町民の「よく生きる」を支えるために、町民と行政が協力し、より良いまちづくりを進めます。行政改革を推進し、誰もが利用しやすく、町民に寄り添う行政を目指します。

町民の皆さんの意見に基づく分析・検討を通じて得られた町民の幸福実感につながる要素を中井町では「幸せ指標」として定め、様々な取組の実施を通じて、「幸せ指標」の向上に取り組めます。

これらの方向性に基づく取組を着実に推進することにより、町民とともに「よく生きる」ことができる持続可能なまちづくりを進めます。

3. まちづくりを進めるための基本的な考え方

将来像の実現に向けたまちづくりを進めるための基本的な考え方を定め、町民が幸福を実感できるよう取り組みます。

(1) 町民の一人ひとりが主役

暮らしやすく豊かな地域社会を実現するためには、町民や企業・団体、行政のそれぞれが主体となって取り組むことが重要です。地域を支える一人ひとりが主体性を持った自主的な活動を進め、それらの前向きな取組が最大限に尊重されるよう、まちづくりに取り組みます。

(2) 多様性を尊重

地域に暮らす人々は、子どもから高齢者、外国人や企業など様々です。日本全体が複雑な多様性のある社会への変化する中、本町においても変化が加速しています。それぞれ立場や考え方が異なる中、町民全体の幸福実現に向けて、お互いを尊重し、違いを理解し、協働によるまちづくりに取り組みます。

(3) 次世代につなぐ

人口減少や自然災害の発生などは、これまでに培ってきた本町の地域文化や社会、自然環境に大きな影響を及ぼす可能性があります。人口減少を緩やかにしていくと同時に、人口減少の中でも町の賑わいや地域コミュニティの形成、自然災害による被害を最小限にとどめるための対策などを通じて、地域における暮らしの安心感を確保することが不可欠です。将来の町を担う次世代が中井町でより良い、幸せな暮らしを送ることができるよう、目の前の問題や課題のみならず、将来を見据えた長い目線で考えた行動を基本としたまちづくりに取り組みます。

町民が幸福を実感できるまち なかい ～里都まちで「よく生きる」～

将来像

6つの
方向性

1. よく暮らす

未来に引き継ぐ
自然・環境、安心・安全

2. よく働く

活力ある地域経済・
まちづくり

3. よく学ぶ

自分らしくあるための
学びと自己実現

4. よい心身

心と身体の健康
を育み守り合う

5. よい繋がり

緩やかな人の繋がり、
地域の繋がり

6. よい行政

町民の「よく生きる」
を支える町行政

3つの
考え方

1. 町民一人ひとりが主役

2. 多様性を尊重

3. 次世代につなぐ

